2020. 3. 1

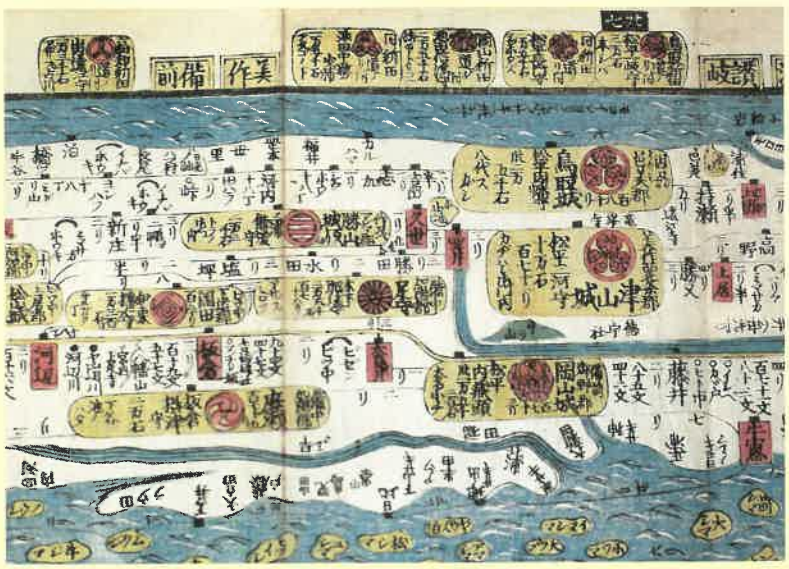
岡山県立 博物館だより 84号

■特別展を終えて ……②③
■交流展を終えて ……④
■企画展を終えて ……⑤
■教育普及事業……⑥⑦
■博物館 NEWS ……⑧
■INFORMATION ……⑧

〈特別展「岡山の日蓮法華」より〉
絹本着色　絵曼荼羅（吉備中央町 妙本寺蔵）

〈特別展「備前のある場所―取り合わせの魅力―」より〉
蒔絵大棗　木地釣瓶水指（個人蔵）
備前焼茶碗 銘只今（岡山後楽園蔵）

〈交流展「正岡子規と仲間たち」より〉
正岡子規写真
画像提供：松山市立子規記念博物館



〈企画展「物見遊山―江戸の旅模様―」より〉
改正増補大日本国順路明細記大成（部分）（岡山県立博物館蔵）

特別展を終えて

特別展「岡山の日蓮法華」

会期：令和元年10月11日（金）～11月10日（日）

展覧会広報ポスター

10月11日から11月10日の開催期間中に、1万729人の方にご入館いただき、図録も増刷分を含めてほぼ完売するなど、手応えを感じることができました。2021年は日蓮の誕生から800年を迎える年にあたり、宗門関係者や各地の博物館施設も、それぞれの企画に向けた準備に入っているでしょうから、関心を持っていただいた時期であったのだと思います。

日蓮の教えはその没後から、教義の解釈や法式を巡って分派や合流が繰り返されてきました。今日の「日蓮宗」とは、身延山久遠寺を総本山とする日蓮法華最大規模の宗派ですが、他にも「法華宗本門流」「顕本法華宗」「日蓮宗不受不施派」など実に多くの宗派があります。「日蓮宗」と「法華宗」は宗教法人としては別といっても、「えっ？」という反応もあるくらいで、分派合流の複雑さや、教義内容まで理解することはなかなか困難です。そんな中「岡山の日蓮法華」で、何を、どのようにご観覧いただくかと考えました。心強かったのは、準備段階から立正大学名誉教授中尾堯（たかし）先生に随分と相談にのっていただき、お口添え、ご教示もいただいたことです。60年以上にわたり全国の日蓮法華寺院の調査と研究を積み上げられてきた先生には、この度随分とお世話になりました。

今回の展覧会では多様な宗派の寺院から出品いただきながら、関東地方で立宗された日蓮法華が、京都、山陽地方に伝えられた歴史と、京都と地方の信者の交流、宗派独自の礼拝本尊である曼荼羅（おまんだら）やこれを絵画化した絵曼荼羅の変容、江戸時代には禁教となっていた不受不施派、さらに庶民に親しまれた法華信仰独自の神や仏まで、幅広いテーマにわたり紹介しました。

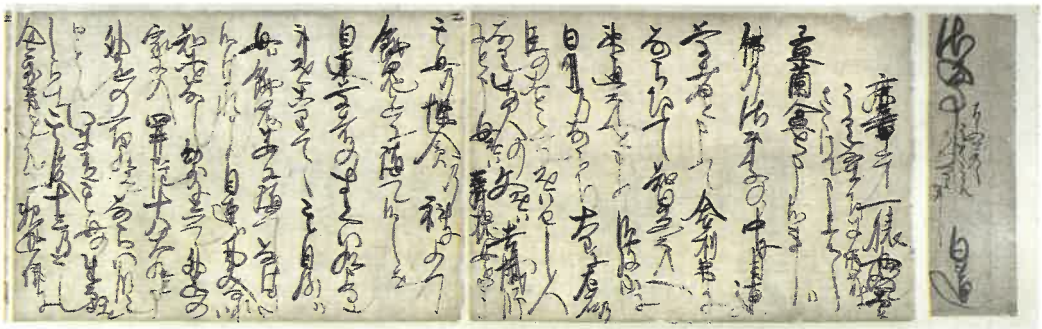
展示の冒頭では、日蓮真筆の曼荼羅本尊と著作4点を公開。西日本では歴史上初めての公開で、作品の前でじっと見入る方、手を合わせる方などの姿が印象に残っています。なかでも京都最初の日蓮法華寺院である妙顕寺に伝来する『玄旨伝法本尊』は、わずか7歳であった日像（幼名経一丸）が日蓮から与えられた本尊で、これまでは門外不出であった秘蔵中の秘蔵の宝物です。紙の折り線に沿って残るシミ跡や擦れ痕は、日像がこれを肌身離さず大切に懐に入れて持ち歩いたことを伝え、その体温が残っているようでした。

会期中は、ギャラリートークのほか、妙本寺（吉備中央町）・本蓮寺（瀬戸内市）での現地見学会、中尾堯先生をお迎えしての記念講演会を開催し、いずれも好評でした。記念講演会では会場が早々に満席になり聴講していただけなかった方も多く、本当に申し訳なく思います。ひと月の会期はあっという間でしたが、「備前法華」「岡山の日蓮法華」について、少しでもイメージが広がる展示となっていたなら幸いです。

（統括学芸員　中田利枝子）

清正公坐像　広島県　妙宣寺蔵

記念講演会　中尾堯氏


重要文化財
盂蘭盆御書　日蓮聖人真筆（部分）
京都府　妙覚寺蔵

特別展「備前のある場所―取り合わせの魅力―」

会期：令和2年2月14日（金）～3月31日（火）

展覧会広報ポスター

800年以上にもわたり生産が続いてきた備前焼。岡山県を代表するやきものとして知られ、近年は鑑賞の対象として美術館などで紹介されることも増えています。備前焼が鑑賞の対象となったきっかけは、「茶の湯」の流行でした。茶室という環境のもと、様々な道具との取り合わせの中でその魅力は見いだされてきました。

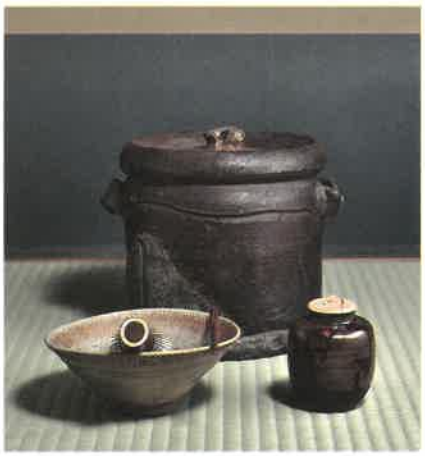
このたびの展覧会では、千利休（1522–91）、古田織部（1544–1615）、小堀遠州（1579–1647）らが活躍した時代の備前焼を、桃山茶陶をはじめとする茶道具の優品と取り合わせて展示を行い、当時の茶会記や現代の茶人の見解とともに３章に分けてご紹介しました。

まず、「第１章　はじまりの姿」では、千利休によって茶の湯が大成される頃に制作された備前焼を、利休ゆかりの茶道具などとともに展示しました。ここで紹介した備前焼は、日常容器を大量生産する中で培われてきた技術により制作されています。そのため、すっきりとした素直な形状のものが中心となりました。

備前水指　銘たまり水　個人蔵
黒楽茶碗　銘朝鴉　個人蔵
黒塗小棗　個人蔵

続く「第２章　広がる可能性」では、胴部を押さえて大胆な変形を加えたり、力強いヘラ目を入れたりした花入や水指を、桃山茶陶の名品とともにご紹介しました。前章で紹介した作品とは異なり、室町時代までに制作されてきた備前焼の形や技法にとらわれることなく、押さえる、削る、引っ付けるなど、ある意味、非効率とも思える方法を取り入れ、目指す形を追求しています。

様々な試みが繰り返される中で、備前焼に求められる色合いや形が定まっていきます。色合いで言えば、赤褐色の表面の上に灰色のサンギリが表れ、そのコントラストがはっきりとしたもの、または、鮮やかな黄色のゴマ（溶着した燃料の灰）が掛かったものやヒダスキ（ワラが燃焼することで付いた緋色の痕）が発色したものが好まれたのではないでしょうか。そして、茶の湯が大成される頃に作られていた形の茶道具が改めて制作されます。さらには、備前焼の素材を活かすことよりも、茶道具として求められる姿へ近づけることのほうが強く意識されるようになり、青磁のほか、金属器や漆器などを忠実に写したものが出現します。


備前水指　銘厳松　個人蔵
蕎麦茶碗　個人蔵
瀬戸茶入　銘山雲　個人蔵

最後に、「第３章　茶道具として」において、茶道具として望まれる姿を強く意識して制作された備前焼を、朝鮮へ注文した茶碗や華やかな蒔絵を施した棗などと取り合わせて紹介しました。

備前花入　個人蔵

作品の出品につきましては、地元である岡山をはじめ、全国各地の所蔵者や美術館などからご協力が得られたおかげで、備前焼はもちろん、多種多様な茶道具の優品が揃った展示となりました。

会期中には、梶山博史氏（中之島香雪美術館学芸課長）による記念講演「茶道具のかたちともよう―桃山のファッション―」を３月１日（日）に開催したほか、２月16日（日）に備前楽茶による茶会、３月15日（日）に（一社）茶道裏千家淡交会岡山支部による茶会を行いました。　（学芸員　重根弘和）

交流展を終えて

交流展「正岡子規と仲間たち」

会期：令和2年1月1日（水・祝）～2月9日（日）

展覧会広報ポスター

平成30年度から始まった岡山・愛媛文化交流事業の２年目は、俳句や短歌など多方面に活躍した愛媛県松山市出身の正岡子規を取り上げました。

子規は、34年と11か月でその生涯を閉じますが、彼の周りにはいつも多くの仲間たちがいました。幼少期をともに過ごした秋山好古・真之兄弟、大学予備門で同窓となった岡山県津山市出身の大谷是空、松山で共同生活し岡山滞在の記録もある夏目漱石、晩年の弟子として期待された岡山市出身の赤木格堂。彼らとは、生涯を通じて交友を続けました。

本展覧会では、日本が近代国家へと移り変わる中、正岡子規がどのような人々と共に過ごしていたのか、子規やその仲間たちゆかりの資料を通して紹介しました。

展覧会の調査の過程で発見された赤木格堂に関する資料は、子規と格堂との関係性が分かる、初公開の資料でした。正岡子規や赤木格堂研究者の方を含め多くの方から「岡山ならではの子規展が見られてよかった」というお声をいただきました。

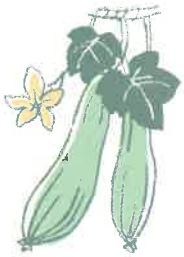
所蔵者の皆様のご協力をいただき、開催することができました。

会期中には、記念講演会として、小島徹氏（津山郷土博物館館長）に「松山のマの字のければ津山なり―愛媛・岡山の共通点と交流の歴史―」という演題で、竹田美喜氏（松山市立子規記念博物館館長）からは、「子規の最期―糸瓜の水も間にあはず―」という演題でご講演をいただきました。「ボランティアガイド」では、友の会ボランティア13名が、会場でガイドし、「展示内容がよく分かった」と来館者からも好評でした。

記念講演会　小島徹氏

記念講演会　竹田美喜氏

ボランティアガイド



（学芸員　野田繭子）

企画展「物見遊山―江戸の旅模様―」

会期：令和元年８月29日(木)～10月６日(日)

展覧会広報ポスター

江戸時代になると、街道や宿駅が整備され、交通の利便性は大きく向上します。やがて庶民も名勝地や寺社仏閣を訪れる旅を楽しむようになり、道中記や名所図会など刊行物も数多く出版されました。とりわけ、江戸時代後期には伊勢参詣や金比羅参詣がさかんになり、そこへ至る街道も大いに賑わうようになります。

本展覧会では、さまざまな絵図や古文書、旅道具、絵馬などを展示し、江戸時代の旅の姿をたどりました。

第１章「旅立ちの前に」では、往来手形や道中用具など、物見遊山の旅に必要なものを紹介しました。なかでも旅の手引書として有名な『旅行用心集』の内容は、現代の旅にも通用する教訓が多く記載されていました。

第２章「岡山の街道と名所」では、山陽道や出雲往来などの街道や、県内各地の名所を描いた絵図や浮世絵を取り上げました。歌川広重が描いた「山海見立相撲」は、児島田ノ口の海と瑜伽山を対比した構図がおもしろく、当時の人々も実際の風景に思いを馳せながら楽しんでいたのではないかと思います。

第３章「東海道の賑わい」では、重要な交通路として多くの人々が往来した東海道の様子を紹介しました。特に『東海道風俗図屏風』は旅姿の庶民や大名行列が随所に描かれており、多くの来館者の目を引いていました。

第４章「寺社参詣とおかげ参り」では、土産品として全国に配られた「伊勢暦」をはじめ、様々な刷り物や日記などから、伊勢参りの様子を紹介しました。また、牛窓神社に伝わる「絵馬　おかげ参りの図」には、柄杓をもって参詣する人々の様子がいきいきと描かれています。

おかげ参宮人江御膳こん立　兵庫県立歴史博物館蔵

第５章「病に倒れて」では、旅の途中で病気になったり死亡したりした時の事例を取り上げました。庶民が頻繁に旅をするようになる一方で、行き倒れた旅人の処置をめぐってどのような課題があったのか、藤原家文書や小野家文書を中心に考えました。

第６章「高草権右衛門の旅」では、安政５（1858）年に諸国を旅した人物の旅を取り上げました。彼の３ヶ月におよぶ旅をつづった『遊歴日記』（初公開）をもとに行程表や関連地図を作り、来館者の方にも物見遊山の旅を追体験していただきました。

展示解説

神崎宣武氏

在間宣久氏

会期中には２つの記念講演会を実施しました。「伊勢参り　大神宮へもちょっと寄り－庶民の旅のタテマエとホンネ」と題した神崎宣武氏（民俗学者・旅の文化研究所所長）の講演では、伊勢参りを題材に日本文化の特徴についてお話をしていただきました。「江戸の旅－旅の現実と旅人の保護」と題した在間宣久氏（前岡山県立記録資料館館長）の講演では、いくつかの旅日記をもとに庶民の旅の実態についてお話をしていただきました。また、毎週土曜日には学芸員による展示解説も行いました。

本展覧会は、江戸の旅のリアルに焦点をあて、物見遊山の諸相を取り上げました。来館者の関心も様々で、美しい浮世絵の風景画に見入る方もいれば、「行倒れ」の旅人の記録を興味深く読み解こうとする方もいました。この展覧会を機に、江戸の人々や文化に親しみを持っていただければ幸いです。期間中、4,862人の方にご来館いただきました。

（学芸員　秋山　亮）

教育普及事業の概要

令和元年度も児童・生徒・一般の方々を対象にさまざまな教育普及事業を実施しました。

■館内授業・出前授業

本館で実物資料に触れ、展示の見学を行う「館内授業」、学芸員が実物資料を持参し、小中学校で実施する「出前授業」は大変好評で、今年度も多くの学校に利用いただきました。

展覧会の展示解説、テーマに基づいた授業、バックヤードの見学なども好評でした。

お気に入りの文化財を一点探すことができるように、10～15分の時間を設けて、子どもたちが館内を自分自身の興味に基づいて見て回れるような工夫もしました。民俗の分野の出前授業も実施し、年間のべ94校の利用がありました。

館内授業

出前授業

■学芸員による展示解説

展覧会や特別陳列にあわせて、学芸員が展示内容の解説を行いました。展示資料の見どころや歴史的背景などを分かりやすく説明しました。学芸員が江戸時代の服装で現れて解説する演出や、学芸員と専門家の対談形式での解説などもあり、多くのお客様に楽しんでいただきました。

特別展「岡山の日蓮法華」展示解説

特別陳列「赤革威鎧」展示解説

特別陳列「岡山の三角縁神獣鏡」展示解説

■中学生職場体験

6校14人の中学生が参加し、文化財の取り扱いや受付、広報活動などの博物館業務を体験しました。参加者は本物の文化財を間近にみて、緊張しながらも充実した時間を過ごすことができたようです。

チラシ作成

バックヤードツアー

陶磁器の取り扱い

■博物館実習

民俗資料の取り扱い

学芸員資格の取得をめざす県内外の大学生17名が、当館での博物館実習に参加しました。８月下旬から９月上旬にかけて５日間の日程で行い、文化財の取り扱い実習や博物館行事の支援などに取り組みました。

刀剣の取り扱い

美術資料の取り扱い

■吉備の国ジュニア歴史スクール

「吉備の国ジュニア歴史スクール」も11年目を迎え、２日間の日程で実施しました。

参加校は、高梁市立落合小学校（29名）、玉野市立大崎小学校（15名）、玉野市立八浜小学校（27名）でした。

１日目は、博物館で実物資料に触れながら、各学校周辺地域の歴史を学びました。あわせて展示室も見学しました。

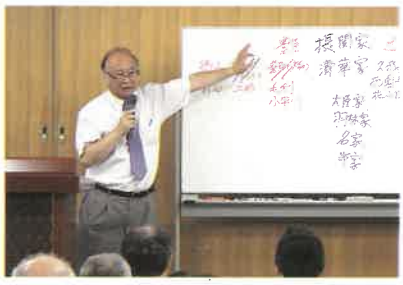
1日目　津島遺跡見学

２日目は、１日目の学習を終えて、さらに自分たちで調べたことや考えたことを、模造紙等にまとめ、発表会を行いました。

事業の様子は、報告集にまとめて県内のすべての小学校に配布しています。

2日目　学習発表

■博物館講座



スペシャルコース　北川央氏

６月から９月にかけて、「岡山の歴史と文化」をテーマに開講しました。学芸員が博物館資料に基づいて講義を行うスタンダードコース（全４回）は58名が受講し、各研究分野の第一人者によるスペシャルコース（全３回）は100名が受講しました。

■ジュニア学芸員講座

刀剣の取り扱い

「ジュニア学芸員講座」は、中学生・高校生が「ジュニア学芸員」として博物館の仕事を実際に体験するものです。今年度は８月１日(木)から３日（土）の計３日間にわたり、20名が参加しました。

当館では様々な分野の文化財の取り扱いを、林原美術館では美術鑑賞や４ｋ（高精細画像）について学びました。参加した生徒達は熱心に取り組み、多くのことを学んだようです。

また、講座の様子をまとめた報告集も作成しましたので、ぜひ御覧ください。

林原美術館での美術鑑賞

博物館 NEWS

寄贈資料の紹介

今年度も、当館に貴重な文化財をご寄贈いただきました。一部ですがご紹介します。

ご寄贈者の趣旨に沿い、広く皆様に還元できるよう、保存と活用につとめて参ります。

武具など工芸品

- 短刀　備前国長船住人新左エ門盛重作　拵付
- 短刀　備州長船祐定　拵付
- 刀装具　印籠、鍔（つば）、鎺（はばき）、笄（こうがい）、目貫（めぬき）など

民俗資料

- 昭和九年室戸台風被災・被害写真帖

など

（学芸課長　竹原伸之）

印籠と刀装具

INFORMATION

改修工事について（お知らせ）

岡山県立博物館は、県政百年の記念事業として昭和46年に開館し、まもなく50年目を迎えようとしています。このたび耐震補強及び老朽化改修工事を行うこととなり、令和２年度から休館する予定です。ご迷惑をおかけいたしますが、改修の後、リニューアルオープンする際には、是非、生まれ変わった博物館にお越しいただき、展覧会をご覧いただきたいと思います。再開館後の皆様のご来館をお待ちしております。

1　改修工事内容

耐震補強、屋上防水、外壁補修、展示室内・収蔵庫内改修、空調設備更新、展示ケース（一部）更新等

2　改修工事スケジュール

令和２年度から令和３年度（予定）

3　休館期間

令和２年４月１日から令和４年４月以降の開館準備を経過した期間（予定）

※改修工事の進捗状況により休館期間を延長する可能性があります。

4　その他

休館中においても、「出前授業」（教育普及事業）や、「現地見学会」・「ふるさと散策」（友の会事業）等は実施する予定です。詳細な内容が決まりましたらホームページ等でお知らせしますので、よろしくお願いします。

岡山県立博物館だより　第84号
発行日／令和２年３月１日
発行者／岡山県立博物館 館長 山田 寛人

〒703-8257　岡山市北区後楽園 1-5
TEL：086-272-1149　FAX：086-272-1150
URL　http://www.pref.okayama.jp/site/kenhaku/